

第32回ITER 機構職員募集説明会でのQ&A

1. 日時・場所

平成21年10月27－28日

Festival City アウガ(APFA2009/APPTC2009国際会議展示会場)

2. 来訪者:約40名

3. 説明概要:

APFA2009/APPTC2009国際会議(於青森市)のITER展示エリアにおいて、会議参加者に資料を配付し、ITER機構職員募集及び登録の案内を行った。(ITERプロジェクトユニット員、研究開発推進室員)

4. 主なQ&A

Q1:ITER機構職員に採用された場合、契約期間は何年ですか？

A1:ITER機構と直接雇用契約を結ぶ場合、契約期間は最大5年です。契約期間満了後、契約を更新することができます。

Q2:ITER機構で働く人のなかに、博士課程卒業後間もないような若い方はいますか？

A2:ITER機構の職員採用は、通常、実務経験を必要としますが、ITER機構にはポストドク制度がありますし、モナコ公国との協定に基づき設立された博士研究員の採用枠(ポストドク・フェローシップ)もありますので、これらの制度により採用された若い研究者も働いています。

Q3:フランス語ができることは必須条件ですか？

A3:ITER機構における公用語は英語ですので、フランス語は必須ではありませんが、生活する上でフランス語ができれば役に立つでしょう。

Q4:60歳以上の方でも応募できますか？

A4:ITER機構には(65歳を目処としているようですが)定年がありませんので、能力さえあれば年齢にかかわらず応募できます。

Q5:事務系でも応募できますか？

A5:事務系の職員も公募の対象となりますので、ぜひ積極的に応募してください。

Q6:ITER機構に採用されるのは難しいと聞きますが、いかがですか？

A6:募集されるポジションの分野や条件は様々ですので、ご自身の経歴に照らして関連するポジション、可能性のありそうなポジションに積極的に応募してください。

Q7:英語の能力として、TOEICで何点ぐらい必要ですか？

A7:TOEICの点数は採用条件にはなっていません。コミュニケーション能力が重要です。様々な国の人々と会話したり、一緒に働いたりした経験があれば役に立つと思います。



APFA2009/APPTC2009 国際会議における ITER 展示エリアの様子